

## 授業改善

### 【本校が3年間で目指した授業】

評価問題を基にした、「みやわかスタンダード東中ver.」の授業展開

### このような取組が効果的だった！

#### ＜取組1＞

評価問題を基にした単元指導計画作成

- 生徒が1単位時間で習得した内容や方法を書き記していく「Point get シート」の活用

#### （成果）

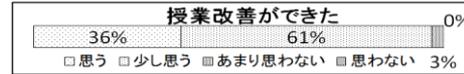
教員が作成した単元指導計画のねらいと生徒が書いた「Point getシート」を比較することで、多くの教員が日常的に授業改善に取り組むことができた。また、評価問題の質も徐々に高まってきた。

次	時	学習活動	Point get シート
1	2	○ 空気中や水中での光の進み方を調べる。 ○ 鏡に光があたり跳ね返った光の進み方を調べる。	○ 光がまっすぐ進む。→ 光の直進 ○ 入射角＝反射角（反射の法則）
3	4	○ 光がガラスや水に入るときや出るとき、どのような進み方をするのか調べる。	○ 空気 → ガラス 入射角 > 屈折角 ○ ガラス → 空気 入射角 < 屈折角 ○ 入射角を大きくすると光は全て反射する。 → 全反射

#### 【Point getシートを基にした単元指導計画】

1	2	3	4
9/30 (日)	10/1 (火)	10/8 (火)	10/15 (火)
光の性質	光の反射	光の屈折	光の全反射
Point (学習内容のポイント) ○ 自ら光をだすもの(光源)は、必ず光を出す。光の直進	Point (学習内容のポイント) ○ 入射角＝反射角 反射の法則	Point (学習内容のポイント) ○ 光は身近なもの(空気)の中をまっすぐ進む。光の直進	Point (学習内容のポイント) ○ 光は身近なもの(空気)の中をまっすぐ進む。光の直進

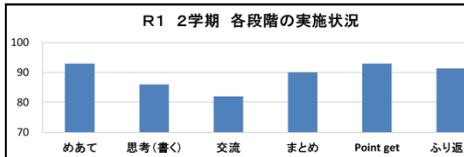
【生徒が本時のポイントをまとめたPoint getシート】



#### 【職員アンケートの結果】

授業の流れ	子どもの活動	学習のポイント	理想とする子どもの姿
1. 始める	子どもを立ち上げて、先生と一緒に問題を解く。	先生と一緒に問題を解く。先生は、問題を解く方法を教える。	本時の学習の目的を達成している。
2. 始める	自分の考えを表現する。	自分の考えを表現する。先生は、自分の考えを尊重し、意見を述べさせる。	Point getシートで自分の考えを表現している。
3. 始める	考えを深め合う。	考えを深め合う。先生は、自分の考えを尊重し、意見を述べさせる。	自分と他の意見の相違点を話し合い、自分の考えを深めている。
4. 始める	先生のことを褒める。	先生のことを褒める。先生は、自分の考えを尊重し、意見を述べさせる。	めあてをもち、めあてを達成している。
5. 始める	授業のポイントを確認する。	授業のポイントを確認する。先生は、自分の考えを尊重し、意見を述べさせる。	Point getシートに今日の学習のポイントをまとめている。
6. 始める	先生でよかったことを伝える。	先生でよかったことを伝える。先生は、自分の考えを尊重し、意見を述べさせる。	この時間、先生で良かったことを振り返っている。

#### 【みやわかスタンダード東中ver.】



#### 【生徒アンケートの結果】

#### ＜取組2＞

「みやわかスタンダード東中ver.」の徹底

- ① モデル授業の実施と全職員での授業展開の共有化
- ② 各段階での理想とする生徒の姿を明確にした授業展開ポイントの確認
- ③ 実施状況を把握するための生徒アンケートの実施

#### （成果）

「みやわかスタンダード東中ver.」の実施率が、生徒アンケートによると、どの段階も80%を超える状況となった。授業者が自分の授業をふり返ることで、次学期への改善が図れた。

### 【考察】質的向上につながった本校の授業改善について

- 「Point getシート」を導入し、生徒が授業の終末で、本時の学習をふり返って、本時のポイントを記入することで、書く力や考える力の向上が見られた。また、生徒の記述内容から、単元指導計画の修正等につなげることで、日常の授業改善を図ることができた。さらに、評価問題を基にした単元指導計画を作成することで、1時間の授業内容を焦点化して計画することにつながった。
- 全ての授業を「みやわかスタンダード東中ver.」で行うため、「授業のパターンが決まっているので、安心して授業を受けられる。」という生徒の感想が聞かれるようになった。

## マネジメント

### 【本校が3年間で確立したマネジメント】

検証改善サイクルに基づいた、全職員が協働した学力向上への取組

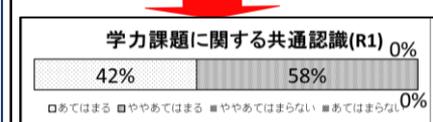
### このような取組が効果的だった！

#### ＜取組1＞ 年4回の検証改善サイクル

- 検証改善サイクルの計画的な実施（C段階における全職員での分析）

#### （成果）

職員アンケートの「学力課題に関する共通認識はできているか。」という質問項目で、肯定的意見(4段階中3・4の回答)が100%であった。



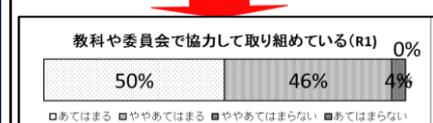
#### 【職員アンケート(学力課題共通認識)】

#### ＜取組2＞ 各委員会の活動の明確化

- 各委員会の役割を明確にした年間活動計画の作成

#### （成果）

具体的な活動内容を可視化したことで、職員アンケートの「教科や委員会が協力して学力向上に取り組んでいるか。」という質問項目で肯定的意見(4段階中3・4の回答)が増加した。



#### 【職員アンケート(職員の協働)】

国語	算数	理科	社会	英語	音楽	体育	美術	保健	生活	総合
15	11	13								
1. 式の乗法、除法 2. 乗法の公式 3. 素因数分解 4. 因数分解 5. 式の計算の利用	1. 平方根 2. 平方根の値 3. 有理数と無理数 4. 根号を含む式の乗法、除法 5. 根号を含む式の計算 6. 平方根の利用	1. 二次方程式の解の公式 2. 二次方程式・因数分解 3. 二次方程式の利用								
22	18	16								

#### 【教科間の繋がりが見える年間指導計画】 (赤字が重点単元)

#### ＜取組3＞ 「説明する力」を高めるために全教科等間の関連を明確にした年間指導計画

- 各教科で「説明する力」を高めていくための重点単元の設定

#### （成果）

全教科で重点単元を設定し、「自分の考えを書く」ことを徹底したことで、全国学力・学習状況調査の記述問題への解答が増え、無解答率が、国語で7P、数学で27P減少した。

### 【考察】効果につながった本校のマネジメントについて

- 検証改善サイクルのC段階の検証に全職員で取り組んだことで、具体的な成果や課題について共通認識し、実践することができた。また、サイクルを短くすることで生徒の実態に応じた指導を行うことができた。
- 各委員会の年間活動計画を可視化したことで、「いつ、誰が、何を」が明確になり各委員会の連携がスムーズになった。
- 「説明する力」を高めるためのカリキュラムマネジメントを行ったことで、各教科の授業改善に終わらず、教科を縦断的・横断的に捉え「説明する力」の向上に全職員で取り組むことができた。